



オオアワダチソウ

山本行政ニュース

編集発行人

行政書士法人

山本事務所

〒104-0061

東京都中央区銀座1-8-21

中央ビル5F

TEL 03 (3567) 3071

FAX 03 (3567) 3078

10月

(神無月) OCTOBER

12日・体育の日

日	月	火	水	木	金	土
.	.	.	.	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

ワンポイント 税務署受付窓口の一本化

7月から、税務署の受付窓口が一本化されています。これまでは、用件に応じて法人や個人、資産等の担当部門の窓口に行っていましたが、申告書や申請書の提出、用紙や納税証明書の請求、税金の納付等については、新たに「管理運営部門」(同部門がない署は総務課等が担当)を設置し対応しています。

10月の税務と労務

- 国 税 / 9月分源泉所得税の納付 10月13日
- 国 税 / 特別農業所得者への予定納税基準額等の通知 10月15日
- 国 税 / 8月決算法人の確定申告 (法人税・消費税等) 11月2日
- 国 税 / 2月決算法人の中間申告 11月2日
- 国 税 / 11月、2月、5月決算法人の消費税等の中間申告 (年3回の場合) 11月2日
- 地方税 / 個人の道府県民税及び市町村民税の第3期分 納付 市町村の条例で定める日
- 労 務 / 労働者死傷病報告(7月~9月分) 11月2日
- 労 務 / 労災の年金受給者の定期報告 (7月~12月生まれ) 11月2日
- 労 務 / 労働保険料第2期分の納付 11月2日 (労働保険事務組合委託の場合11月16日まで)

新しい貧困



ニュープア

近代資本主義社会は、職に就いて真面目に働きさえすれば、人並みの生活が送れることを保証することによって成り立ってきました。

しかし、近年、日本だけでなく、先進国で拡まっているのは、「職に就いて真面目に働いても人並みの生活ができる収入が得られない人々が増大している」という事態です。これを欧米では、ニュー・プア（新しい貧困）と呼んでいます。

ワーキングプア（働く貧困層）の出現と、ライフコース（一生の間にたどる道筋）の不確実化の双方が同時進行し、相乗作用を起こすことによって、わたしたちの生活不安を加速させています。

ライフコースの不確実化とは、仕事や家族形態が多様化し、将来、どのようになるか予測がつかなくなることです。

正社員として勤めたくても勤め先がないリスク、自営業がうまくいかなくなるリスク、そして、家族の領

域では、結婚できなかつたり、離婚するリスクの高まりをもたらしています。自分ではそうなりたくなくても、結果的に、自分にとって不本意な雇用形態や家族形態に陥ってしまうというリスクです。

貧困と突発的な事故

これまでの貧困は、何か特別の理由があって貧困状態に陥るとというのが共通理解でした。

たとえば、病気やけがで働けなくなったり、自分を扶養してくれていた親や夫が亡くなるという「突発的な事故」で貧困に陥る、あるいは、身の丈を超えた過大な消費によって引き起こされるものでした。また、事業の破綻や企業倒産に伴う解雇などは、1990年頃までは、「事故」に等しい出来事でした。

しかし、現代のワーキングプアは、特別の理由がなくても、周辺環境の変化によって、いつのまにか貧困状態に陥ってしまうことにその特徴があります。

ワーキングプアが増える理由

ワーキングプアが増えた理由は、雇用が不安定で昇進がない低賃金労働者が、想定する範囲を超えて増大したからです。

資本主義が高度化すると、低賃金労働者が大量に出現します。低賃金にとどめ置かれる仕事のほとんどは、仕事を覚えるのにそれほど時間がかからない単純な仕事です。

そのため、常に労働供給過剰の状況になります。そして、仕事をしていてもスキルアップ（技術の向上）につながりませんから、低賃金から抜け出すことができません。そして、仕事の需要が変動し、需要がなくなれば仕事を失う調節弁としての不安定な職となります。

最大の問題は、これらの仕事は商品の生産・流通・販売のために必要な仕事なので、なくすことはできないということです。

人も企業もスキルアップすることがキーワードとなってきています。

どの会社でも「細かい人」と言われる上司はいるものです。部下の挨拶や服装をいちいち注意したり、小さなミスに目を光らせて小言を言ったり、あるいは、毎日の営業活動に関して仔細な報告を求めてくる人々です。

こうした「細かいリーダー」には、2つのタイプがあります。1つは、そもそも「細かいことが好き」なリーダーです。書類はきちんとしていないと気持ちが悪い、部下はこうあるべきだという厳しい基準があり、それから外れるのが嫌なのです。つまり「小さいことが目的」になっているリーダーです。

一方で、少し視点が違う人々も存在します。例えば書類の不備、服装の乱れといった問題の背後にある問題を懸念して注意するので、社内の書類のミスは、例えば顧客との契約上のミスにつながりかねません。

したがって、リーダーが自分を振り返ってみるとき、もし前者であるとすれば、後者になることを考えてみるべきです。「細かい」ことに気がつくということは、「予兆」「氷山の一角」を捉える力はあるということなのです。それをもう一押しして、「小さなこと」「細かいこと」それ自体を目的とするのではなく、「サイン」からより深くもぐった本質的な問題にたどりつけないかと考えることで、「細かくて嫌だ」から「細かいけれ

身近な戦略思考

ど、意外に見るところは見ている」といった評価に変わるのではないのでしょうか。

戦略的思考

さて、どんな小さな組織でも戦略は必要です。戦略あるいは戦略的思考とは、現場の実行とそれを通じた新たな情報によって常に改善、変更されるべき宿命を負っています。戦略とは出発点であってゴールではありません。

経営学専門の大学院卒業者に与えられる経営学修士号がMBAですが、経営戦略などMBAのための専門用語を集めた抽象的な「MBA用語」を振り回すことではなく、戦略に命を吹き込むのは現場の具体的な情報、意見、観察なのです。

戦略思考とは「大きなことだけ」を考えることでは決してなく、「小さなこと」をつなぎ合わせてより本質的な、大きなことに近づこうとする方法であることを忘れてはなりません。

現場のサイン

市場や環境の変化が最初に表れるのは、現場です。顧客の態度の変化、商品の売れ行き、競合の動きなど、現場で苦勞している第一線の社員には、様々な変化の「予兆」「サイン」が送られてくるはずですが。

しかし、そうしたサインを「小さなこと」「つまらないこと」として無視していたとすれば、上司に上げる意見には何も新しいものがなく、つまらなくなるのも当然です。

小さなことへの気づき

社員が「サインとして重要な小さなこと」に敏感でないということは、その上司、例えば部長がこれまで部下から上がってきた「小さなこと」を何でもかんでもつまらない、もっと他に大切なことがあるだろうと無視してきたからかもしれません。

自分の基準を、上司の基準に合わせてしまい、日々の小さな変化、予兆に気がつかない習慣が身につけてしまいます。

奇をてらうことではなく、地に足の着いた経営はこうしたことから出発点が大切です。

「セルフメイド」～節約時代～

昔から私たちの生活の中には、“買わずに、こしらえる”文化が根強くありました。三度の食事はもとより、漬物、手編みのセーターにマフラー、子供の服、お餅から犬小屋まで。そんな忘れかけていた暮らしの基本が、いま、経済不況、雇用不安といった百年に一度の不景気のおかげでよみがえりました。大節約時代の到来です。

好況の時代には何の疑いもなしに恩恵にあずかっていたモノやサービスを、自らの手でまかなってしまおうというセルフメイド・ピギナーたちが増えています。苦肉の策と言ってしまうえばそれまでですが、いざやってみると、家計の負担を減らすという目的を超えて、けっこう新しい趣味との出会いだったり、自分の意外な才能に目覚めたりと、思わぬ副産物が。

家計の節約で真っ先に手をつけるのが、「食」になるようで、コンパクトな「精米

機」が人気です。お米屋さんの米より美味しく健康にもよく、米ぬかも使えるというのが売れ行き好調の理由とか。

自宅で“しいたけ”を栽培してしまおうというキットも大好評です。菌床に菌を植え込んだ栽培用のキットで、1週間ほどでシタケがニョキニョキ！エリンギやシメジ、ナメコなどのキットもあります。

赤ちょうちん派の男性諸氏に好評なのが、家庭用のやきとり専用電熱器。このおかげで、明らかに呑み代が減った、との声も。

“食”以外では、子供の散髪代を節約するというわかりやすい理由からでしょうか、「電動バリカン」が復活して売られています。また、靴補修用グッズの売上げも伸びています。なかでも好調なのが、すり減ったカカト部分の靴底を再生するキット。補修剤と紙ヤスリ、プレート、ヘラがセットされています。お父さんたちは、必要だから仕方なくとはいえ、案外、日曜大工感覚で楽しんでいるのかも知れません。

千歳飴

子どもの成長を祝う行事といえ、七五三ですが、七五三で、必ず子どもが手に持つものは鶴亀や松竹梅の描いてあるあの袋に入った長い千歳飴。

千歳飴は、元は「せんねん飴」。「せんざい飴」といい、江戸時代の浅草・浅草寺で七兵衛という飴屋が長寿を願って棒状の飴を売ったものが最初といわれています。この飴を、健康と幸せ

を願う親が持たせたことが始まりだそうです。そもそも七五三は、七・五・三歳という節目を無事に迎えられたことを祝い、今後の成長を願うもの。それゆえ、長寿に通じる長い棒の飴はまさに縁起物だったといえます。

現代でも水あめなどを使う昔ながらの製法を守る飴専門店もあり、七五三のお祝いのお返しとして千歳飴を配る風習も残っているようです。

楽しく学ぶ大人の遠足

秋ともなれば遠足シーズン。「遠足」と聞くだけで楽しい思い出がすぐさま浮かぶ方もいらっしゃることでしょう。そんな思い出を再びということでしょうか、お弁当や水筒持参で「楽しく学ぶ」雰囲気満載の大人の遠足が話題です。

事前の下調べや現地での記録など、ただのレジャーにはとどまらず、自分が興味のある「歴史」や「社会見学」などテーマを決めて楽しんでいる人も多いようです。

さらに旅行会社主催のものになると、「カリスマシェフによるフルコースを味わう」ものや官公庁やテレビ局、工場の見学など、個人ではなかなか実現できないような遠足が充実しています。もちろん楽しさにおいては、ぶらりと気ままに近くの山や遺跡、神社仏閣などをたずねる遠足もひけをとれません。大人の遠足は自分らしく計画できることが、人気の秘密なのでしょう。